

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共同生活介護において住み慣れた地域で家庭的な馴染みやすい環境を提供できるように努力しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットや事務室に理念を掲示し、理念・方針を毎日朝のミーティングの時に、全員で唱和しています。理念についてユニットでの目標も立て、取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進会議やホーム便り（ゆうらくふぁみりー）にて理解を求めています。	○ 更に、ゆうらくを理解・認知してもらえようように地域に出て活動していきたいと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩時に気軽に声をかけ合っています。又、隣近所の方が作った野菜や果物を戴いたり菓子などを分け合ったりしています。託児所の子供達が遊びに来ています。	○ 地域の人達との交流を深めながらこちら側から積極的に出て行く様にしたいと考えています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の夏祭りや納涼祭などに参加し交流しています。社会福祉協議会のボランティアや施設見学、大学生の地域保健実習、中学生の介護体験実習を受け入れています。	○ 運営推進会議を通して地域の区長さんや民生委員などと、協力し合って活動していきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設老健施設と合同により介護教室を行いホームとしては、認知症高齢者の介護の良い例と悪い例の寸劇を行いました。	○	ホーム独自での介護教室を行いたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	話し合いをし実行に移せる部分は、すぐに実行する様にしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営会議はとても有効であり参考になる話や意見が多いです。特に参加している地域の人達や市町村職員等との関係が深まりました。	○	地区の代表者の方も介護保険について積極的に勉強してきて参加しています。そして分からないところは質問していただき、それぞれの立場で勉強になり質の向上が図れていると思います。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は下妻市地域密着型サービス運営委員会委員でありグループホームの立場から意見交換をしています。分からない事などは市町村の担当者に聞いています。	○	市町村の担当者に分からない事は聞き意見を取り入れながら現在のサービスには何が必要か、話し合っていきたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当利用者がまだいません。	○	必要な人が出た場合、活用できるようにパンフレットは取り寄せています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて話したり研修での資料を回覧し読んでもらっています。	○	管理者として職員の介護ストレスなど早期発見しやすい様にいつでも悩みを話せる関係づくりをユニットリーダーと共にしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、ゆっくりご家族に時間をとっていただき丁寧に分かりやすく説明し同意を頂いています。入居してからも分からない事はいつでも質問に応じられる体制にある事も説明しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満等を表に出せる様な環境作りを心がけ利用者への言葉掛けや表情を見ながら意思確認しています。苦情受付窓口を契約時に文章と口頭で説明し気軽に言ってくれる様にご家族に働きかけています。	○ これからも運営会議にて意見を聞いていきたいです。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りに掲載したり、面会時に日々の様子を説明しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情があった場合は敏速に対応する様になっています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議にて意見や提案を聞き対応しています。職員がより多く話せる様に風通しの良い職場になる様心がけています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、今のシフトで問題はありません。必要時は必要な勤務シフトに切り替え対応しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にしたいと考えている為、極力職員の移動は避けていますが、緊急時の事を配慮しユニット間での交流の場を持っています。職員の離職が少ない為、職員全員が両ユニットの利用者ととても親しくしています。	○	職員の動きやすい環境作りを行い、離職で利用者へのダメージを防ぐ様に取り組んでいきたいです。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じての外部研修を推進しています。研修終了後は朝の申し送り時に発表し全体に反映する様に行っています。ホーム内研修も1回/2ヶ月で行っています。	○	今後も内外研修を計画し、質の向上を図りたいです。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市のグループホーム連絡協議会に加入しており、相互に交流し良い所は取り入れています。研修会にも参加しています。地域の連絡会にも参加し情報交換しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は各ユニットリーダーと常に情報交換し日々様子に気を配るようにして、いつもと違った様子が見られる場合は声をかけ相談にのっています。気分転換に食事会や日帰り旅行等を行っています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者として職員とこまめにコミュニケーションを図っています。職員1人1人の持っている能力を充分発揮出来るような機会を作っています。	○	今後も必要な資格取得の支援をしていきたいです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接にて本人、ご家族のニーズを聞き、取り入れる様にしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接にて本人、ご家族のニーズを聞き、取り入れる様にしています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、当ホームでは対応困難なケースはきちんと説明し理解を頂いた上どんなサービスが良いか相談にのり他のサービスを説明しています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にも事前に見学していただく必要があれば馴染めるまで来ていただいてから入居していただけるよう配慮しています。すでに入居している方にも協力していただいています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	古くからの習わし事や、家庭菜園での種蒔、苗の植え方、収穫、料理方法などを教えて頂き人生の先輩として学ぶ機会を与えて貰っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に悩み考えながら利用者にとって一番良い方法を考えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加や外出、外泊を積極的にすすめていき本人と家族のより良い関係づくりを支援しています。面会時は必要以上に訪室せず家族と共にゆっくり過ごせる様配慮しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入所していた場所へ連れて行ったり美容室などは家族に協力頂き可能な限り行っています。友人などは気軽にいつでも面会に来て頂ける様に伝えてあります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時間は職員も共に時間を共有しています。日中ほとんどの方がリビングで過ごしています。利用者同士会話したり、自立度の高い方が世話をしている様子があります。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている場合は、時々様子を見に行きます。他のホームへ移動した方が面会に来ています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる際は本人、家族に意向を聞いています。日々の会話に中でも利用者本位にした事、やりたいことを聞いています。出来ること直ぐに実現出来る様にしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は情報収集を充分にして在宅での趣味、経験を活かす様にしています。	○ 本人の出来る事、出来ない事を把握して活躍の場を作りより良い暮らしが出来る様に支援してまいります。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りやコミュニケーションを図りながら各入居者の役割を行う中で必要とされている事や爽快感、達成感が感じられる様にしています。	○ 理念にもある様にその人らしく主体的で豊かな生活を大切にしていきたいです。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を事前に聞いて介護計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度、本人、家族の意向を再確認しサービス担当者会議を実施し介護計画を作成しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録表とケアプラン実施表に記録する様にして職員間でケアプランに基づいてサービスを提供しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリ希望の方は通院にてリハビリを実施しています。その他、外食や買い物など希望に応じて行っています。	○	今後、地域の中の施設と捉えていただける様、必要に応じて柔軟に対応していきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	尺八やハーモニカ演奏等のボランティアの方が来訪しています。介護体験地域保健実習を受け入れています。年2回の防災訓練は消防の方にも協力していただいています。	○	今後警察などとも交流する機会を設け地域に当ホームを知っていただきオープンな施設づくりをしていきたいです。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	該当なしです。	○	本人の意向があれば対応していき、地域から頼られる施設づくりを目指していきたいです。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	取り組んでいません。	○	運営推進会議を通して情報交換を行っていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の平間病院、かかりつけの眼科、歯科との連携をとりながら支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要がある方は認知症疾患センターでの継続受診を行っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設に看護職員が勤務しているので相談しながら日常の健康管理を行っている。併設老健とも24時間体制で連携がとれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院中は面会を兼ね洗濯物を持参し、病院との情報交換を密にしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の際に看取りに関して説明し同意書を貰っています。さらに重度化した場合は再度家族に確認をする様にしている。	○	協力医療機関とも連携し、その都度ご家族には必要があれば担当医から状態についての説明して頂き話し合っていきたいです。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りに関しての指針を作成し、入居時に説明しています。	○	今後も本人ご家族の意向を聞きながら協力医療機関と連携をとり、本人とご家族にとって良い方法を考えていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリー等で情報交換をして次の居住地に訪問し、情報を得て納得し安心して移動となる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人にあった声かけをしています。特に排泄時、入浴時の不安や羞恥心等への配慮をしています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事の際はスタッフと入居者間で会議を設け希望を出してもらっています。反省会もおこなっています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいて入居者中心で行い業務優先にならない様、入居者個人のペースで支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が選んだ洋服でお洒落をしています。特に外出時、受診時などは時間をかけて選んでいます。行事の時は朝からお化粧をしている方が多いです。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園での収穫時などは自分達で料理を作っています。毎日の食事の準備片づけも一緒に行う事が習慣となっています。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の好きな方は行事等で飲んでいます。希望のおやつと一緒に作って食べています。個人で食べたい物は売店や近くのスーパー等で買い物をして来ています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄チェック表にて誘導を行いリハビリパンツからパンツとなっています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	リラックス出来る様に個別対応しているゆず湯、菖蒲湯、花湯、リンゴ湯などで季節感を香りや目で楽しんでもらっています。	○	今後も楽しく入浴出来る様に工夫していきたいです。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく体を動かし、夜間は眠れるよう生活パターンを作っている。夜ねむれない入居者には温かい飲み物を提供し、肩揉みや、マッサージ等のスキンシップを図っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自が出来ることを見出し、コミュニケーションを図りながら役割りや活躍の場を作っています。「ありがとう」の一言は忘れずに言う事での達成感や充実感が得られる様にしています。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの管理を自分で出来る入居者は持っているがそれ以外の入居者の小遣いはホームで管理しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日の日課になっています。毎月28日は「山川不動尊」への外出は恒例となっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日曜日は買い物の日となっているので個別に希望があれば対応しています。行事などで希望を取り入れています。	○	入居者の希望にそって可能であれば柔軟に対応していきたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いをだしています。電話は玄関に設置してある公衆電話を利用しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも出来ます。来られた時は一緒に過ごせる様に必要以上に訪室せずゆっくりすごせる様配慮しています。	○	今後も一緒に食事をして頂いたり居心地よく過ごせ、気軽に訪問出来る様なホームにしていきたいです。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、開設当初から身体拘束はありません。	○	今後、無意識に言葉により行動を制限していないかなど、認識しながらケアしていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中掛けていません。徘徊者の離設対応は、ユニット間の連携をとり所在の確認をしています。外へ出てしまっても静止せず行動を共にし、離設の理由と行動範囲を把握するようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面キッチンになって居るので見守りがしやすいです。ホールの見通しも良く日中居室に入っている入居者は少ないです。夜間は二時間毎に巡視しています。転倒の危険が高い入居者の所へは本人が安心して休める様に配慮しながら頻繁に巡視しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手順書を作成し危険な物品は鍵のかかる所へ保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ニアミス報告書や事故報告書にて報告し、カンファレンスにて対策をたて再発予防しています。報告書全体集計は1回/3ヶ月行い会議にて検討しています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年、施設内研修にて緊急時の対応方法を学びました。	○	今後も定期的に勉強会を行っていきたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署の協力のもと行っています。	○	今後地域の方々に協力していただく体制づくりも必要だと思います。運営推進会議にて働きかけていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクに関しては個別に家族に説明し、意向を聞いて対応しています。	○	ご家族からの意向を聞いて一緒に相談していききたいです。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや顔の表情の変化等を見極めて看護師に報告し判断と対応をしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬についての効能書きが見易く表示されています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、野菜（繊維の多い）を進め、トイレで腹部マッサージ腹圧が駆けられる様指導しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを行っており義歯の管理の困難な方は職員が行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし、管理栄養士の協力をえて献立を作っています。水分不足気味の方はチェック表を使っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策委員会を発足し予防に努めています。マニュアルに沿って毎日の手洗い・うがいを行っています。	○	外出から帰室した際、手洗い・うがい、食事前は手洗いを行っています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手順書を作り、まな板は週1回、布巾は毎回消毒しています。まな板については2枚あり、魚と肉用に分け使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の草花を植えて暖かさを出しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳スペースが有り、くつろぐ事が出来ます。季節の草花や家庭菜園が窓から見える様になっています。室内には季節の花を飾るようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにはピアノがあり、自由に弾ける両ユニットの交流の場となっています。リビングルームには入居者のいこいの場でもあり談話したり、テレビをみたりして日中ほとんどの時間を過ごしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族の位牌、写真、本、置物など、本人の大切な 物を持参しています。施設で作成した手作りの作 品は居室入口に掲示してあります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各自に合った温度調整も行い団扇や扇風機の使用 も適宜に行っています。換気はこまめに行い常に 新鮮な空気が入るように配慮しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下には手すりが設置してあり車椅子でも行き来 出来る様に広がっています。室内と外に物干し を用意し、いつでも自由に使える様になっていま す。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室入口には手作りの自分の写真が有りトイレは 大きな文字で表示してあります。出来ない事はさ り気なく声かけや、手を貸して上げる事で失敗し ない様な配慮しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外には庭があり、クローカー場・菜園・花 壇に利用しています。ベランダにはベンチがあ り、それらが見渡せ季節感を楽しめます。又、洗 濯物の干し場としても利用しています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

絶えず笑顔で入居者の一人一人の話を良く聞き、束縛せずその人らしい生活が出来る様に心掛けたいです。関わる機会を多くし常に側に居てくれるという安心感が得られる様に努力しています。これからも入居者の皆様が、毎日活気に満ちた笑顔の絶えない生活を過ごせるよう職員全員で取り組んで行きたいと思っています。